

TOUR DE HOKKAIDO 2007 NEWS

第3ステージ 2007年9月14日発行

個人区間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	4:21:09
2	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	+0:00
3	宮澤崇史	NIPPO梅丹	+0:00
4	メディ・ソウラビ	イラン	+0:00
5	飯島誠	ブリクストン・アンカー	+0:00
6	ダレン・ラプトーン	オーストラリア	+0:00

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	51
2	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	50
3	宮澤崇史	NIPPO梅丹	44
4	飯島誠	ブリクストン・アンカー	27
5	メディ・ソウラビ	イラン	27
6	パク・スンベック	韓国	24

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	オーストラリア	20:55:56
2	ミヤタ	+0:16
3	NIPPO梅丹	+1:54
4	ブリクストン・アンカー	+6:37
5	イラン	+13:02
6	シマノ	+14:30

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	6:58:15
2	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	+0:03
3	宮澤崇史	NIPPO梅丹	+0:06
4	新城幸也	NIPPO梅丹	+0:14
5	角令央奈	鹿屋体育大学	+0:14
6	飯島誠	ブリクストン・アンカー	+0:16

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井雪広	シマノ	20
2	増田成幸	ミヤタ	19
3	パク・スンベック	韓国	7
4	リュギホン	韓国	6
5	メディ・ソウラビ	イラン	5
6	松田究	早稲田大学	5

テキストライブ配信中!

ツール・ド・北海道のレースの模様をテキストライブで配信中。携帯からも閲覧できます。



PC: <http://www.cyclingtime.com>
携帯: <http://mobile.cyclingtime.com>



3rd Stage 総合上位陣の激しい争いはドッカー（オーストラリア）が制す

第3ステージは、共和町役場前をスタートし、今金町総合体育館前でフィニッシュとなる174km。

集団はひとつのまま、すぐに上り始め、集団の先頭に山岳賞ジャージをまとった土井雪広（シマノ）が上がってくる。土井とともに逃げたのは、山岳賞3位につけている増田成幸（ミヤタ）。11km地点でリーダージャージのヘンリ・ヴェルネル（ドイツ）がバンクするものの、すぐに集団に復帰し事なきを得た。

最初のKOMは増田、土井、リュギホン（韓国）の順。先頭2人に9人が合流し11人となり、集団とのタイム差は1分20秒まで広がるが、徐々に縮まり集団はひとつになる。

2回目のKOMは集団のまま通過。パク・スンベック（韓国）、メディ・ソウラビ（イラン）、増田の順で、山岳賞ジャージの



ポーナスタイムにより個人総合時間賞でトップに立ったミッチェル・ドッカー（右ノオーストラリア）土井は4位だった。

97km地点になる1つ目のホットスポットは、宮澤崇史（NIPPO梅丹）が獲得。ここからアタックがかかり始め、集団から20人の逃げが決まる。総合上位につけるヴェルネル、ミッチェル・ドッカー（オーストラリア）、西谷泰治（愛三工業）、

宮澤、新城幸也（NIPPO梅丹）のほか、オーストラリア・ナショナルチャンピオンのダレン・ラプトーン、UCIアジアツアーで活躍しているホセン・アスカリ（イラン）、さらに昨日U23賞を獲得した角令央奈（鹿屋体育大学）も含まれている。集団との差は開く一方で優勝争いはこの20人に絞られる。

2回目のホットスポットは、ドッカーが1位で通過し、この時点で個人総合の暫定トップに立った。

ゴールを前にアタック合戦が繰り広げられている中、昨年の覇者、西谷が先頭集団から遅れる。

最後は17名に絞られた集団をドッカーが制し、ステージ優勝を飾った。総合リーダーのヴェルネルは2位でゴールしたものの、個人総合時間賞、ポイント賞ともにドッカーに移った。

Next Stage オーストラリアはアップダウンが続くステージをどうコントロールするか

オーストラリアのミッチェル・ドッカーが個人総合争いでトップに立った。第3ステージのレース終盤、3人残ったオーストラリアは他のチームのアタックをつぶし、集団ゴールに持ち込んで、思惑通りドッカーがスプリントを制した。オーストラリアは全体を通してレースをコントロールし、強さを見せつけるステージとなった。

一方、リーダージャージを着ていたヘンリ・ヴェルネル（ドイツ）は孤軍奮闘という厳しい展開を強いられていたが、ゴールスプリントも2位でフィニッシュ。ポーナスタイムにより僅差でリーダージャージを奪われたものの、その実力を示す走りだった。

日本勢は宮澤崇史（NIPPO梅丹）がステージ3位に入り、ポーナスタイムを獲得、7秒差の3位に浮上。チームメイトの新城幸也が続く4位、14秒遅れ。そして鹿屋体育大学の角令央奈が学生ながら5位と健闘。

また、ミヤタが唯一、先頭集団に3人送り込み、その結果、団体総合成績でオーストラリアに続き2位となっている。

第4ステージは長万部町から伊達市まで、アップダウンが続く164.4km。注目目は、127km地点から始まるザ・ウィンザーホテル洞爺までの上り。平均10%の3kmの上りは、蛇行して走る選手が続出する。総合争いはここでふるい落としが

かけられるだろう。上りに強い選手はここでライバルを苦しめる走りができるかがポイントだ。



学生ながら先頭集団に残り、個人総合でも5位につけた角令央奈（鹿屋体育大学）



TOUR DE HOKKAIDO

<http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>